

Checkmarx CxSAST 新バージョンをリリース



CxSAST 8.6.0 GA 版をリリース！

新しい機能の実装や機能改善により、これまでよりも価値ある製品になりました。

概要

このバージョンで実装された新しい機能や機能改善は以下の通りです。

CxSAST

- プログラミング言語とフレームワークのサポートを拡大
- スキャンエンジンの機能改善
- CI/ビルドサーバープラグインの機能改善
- CxAudit の機能改善
- インフラの機能改善
- その他の機能改善

CxOSA

- CI/ビルドサーバープラグインの機能改善
- REST API の機能改善
- インフラの機能改善

新機能: CxARM (Checkmarx Application Risk Management)

- CxARM API の搭載

リリース内容の詳細

CxSAST

プログラミング言語とフレームワークのサポートを拡大

- Typescript (Native)
- Angular 4 (互換性:バージョン 2 以上)
- .NET Core 1.1
- Google Guice (「グーグルジュース」) – Java 用 DI(Dependency Injection)フレームワーク

スキャンエンジンの機能改善

- 検出可能なモバイルセキュリティ(AndroidとiOS用)の脆弱性を拡大
- Java/C#/C++のオブジェクトエイリアス、ポインタ、参照機能のサポートを強化

CI/ビルドサーバープラグインの機能改善

- Jenkins プラグインの機能改善
 - 非同期モードでのスキャン実行時に、最新のスキャン結果を表示
 - スキャン結果に再発した脆弱性と新しい脆弱性を表示
 - 新しい SAST 脆弱性に対する Fail The Build プラグインをサポート
 - Jenkins 認証情報管理に対応
- Bamboo プラグインの機能改善
 - プラグインからの新プロジェクト作成の有効/無効化のグローバル設定
- VSTS プラグインの機能改善
 - ビジュアルスキャンレポートと Jenkins, Bamboo and TeamCity レポートとの連携
- CLI の機能改善
 - トークンベース認証を追加
 - 非同期実行のサポート
 - Exit コードのサポート

CxAudit の機能改善

- 監査済みプロジェクトファイルの表示を改善
- サーバーマネージャロールのないユーザのクエリの新規作成とプリセットへの追加をサポート

インフラの機能改善

- 長いファイルパスのサポート (Windows 10/Windows Server 2016 OS の長いファイル/フォルダパスのスキャンに対応)

その他の機能改善

- OWASP Top 10 2017 に対応 (検出可能な脆弱性の拡大、プリセットやカテゴリー、レポートフォーマットの追加によるサポートの強化)
- エンジン管理用ダッシュボードの追加 (エンジンの追加、削除、ブロック、ブロック解除を行えるエンジン管理画面)
- GIT 設定画面の改善 (設定の簡易化)
- SOAP SDK APIs の一部を REST へ移行

CxOSA

CI/ビルドサーバープラグインの機能改善

- CLI、Jenkins TeamCity、Bamboo プラグインで以下をサポート:
 - スキャン前圧縮ファイルの解凍
 - WAR ファイル
 - EAR ファイル
 - EAR、WAR および Zip アーカイブ
 - Unicode UTF-8 BOM のエンコーディング
- MS-VSTS プラグインのサポート: スキャン開始、スキャン結果表示、閾値での停止

REST API の機能改善

以下の OSA API を追加:

- OSA ライブラリライセンス情報の取得
- OSA ファイル拡張子の取得

インフラの機能改善

- CxServer へのライブラリファイルのアップロード機能を廃止 (ファイル名と SHA1 のみのアップロードに変更)

新機能: CxARM (Checkmarx Application Risk Management)

CxARM は、開発マネージャやアプリケーションセキュリティマネージャ向けのアプリケーションセキュリティリスク管理ソリューションです。CxARM を使用することで、アプリケーションポートフォリオ全体のセキュリティリスクを把握することが出来ます。CxARM には、中央管理コンソールが実装されており、一貫したアプリケーションセキュリティ方針をカスタムコードと自社開発コード、およびオープンソ

ースコンポーネントのそれぞれで定義することが可能です。また、キートレンドや KPI を追跡し、実行可能なデータに基づく組織内での意思決定を加速します。

今回追加された CxARM には、OData ベースのアプリケーションリスク管理 API が搭載されています。この API では、CxSAST や CxOSA のスキャン結果を検索、集積、フィルタリングできるので、ユーザーはカスタムダッシュボードやレポートを作成し、さらに取得した情報を様々な他のダッシュボードや脆弱性管理ソリューションでも利用することが可能です。

CxSAST 8.6.0 GA 版入手について

新しいバージョンの入手については、[こちら](#)までお問い合わせください。また、機能改善の詳細については[リリースノート](#)をご覧ください。どうか、[こちら](#)までご連絡ください。

商標について

本書内に記載されている会社名、システム名、製品名には各社の登録商標または商標が含まれます。本文および図表中には、「TM」および「(R)」を明記しておりません。



Copyright © 2017 Checkmarx LTD., All rights reserved.